

**科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業
次世代研究者育成プログラム
(実施期間：平成 27～令和 4 年度)**

コンソーシアム名：最先端融合科学イノベーション教育研究コンソーシアム

代表機関：東京大学（総括責任者：藤井 輝夫）

共同実施機関：東京工業大学、電気通信大学、早稲田大学、慶應義塾大学

取組の概要

世界をリードしてイノベーション創出するためには、次世代を担う研究人材の育成と確保が必要である。本コンソーシアムでは、分野や機関を超えた連携のもとで最先端研究に取り組んできた5大学によるナノ・マイクロ加工と光量子科学の研究連携体を核とし、組織を超えて平準化された制度と予算措置のもとで、個別の機関や部局による短期雇用を改め、流動性を高めつつ安定した雇用を実現する。この高い流動性、長期に安定雇用する仕組みのもと、新たな融合領域研究を生み出し、実践的な質の高い業績を積み上げ、キャリアアップを図る次世代研究者を育成する。同時に、共に研究活動を推進するポストドクターや博士課程学生に、異分野の出会いを促し、俯瞰力を持ち、多様な場で活躍できるよう様々な教育プログラムを提供し、グローバルに活躍できるイノベーション創出人材の育成を行う。研究者キャリアモデルを示し、研究者を目指す若者を増やす効果を高める。

(1) 評価結果

総合評価	進捗状況 (全般)	進捗状況 (システム構築)	進捗状況 (取組の内容)	体制構築	今後の進め方
A	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

次世代研究者育成において8名の若手研究者を採択し、若手研究者が100%研究に専念できる環境を構築したこと、キャリアサポートが適切に行われていること、多様性に配慮された育成等は評価できる。イノベーション創出人材育成の取組は極めて充実しており、国内外のインターンシップやマッチングイベント等が実施され、多様なキャリアパスを支援する仕組みが整備されたと認められる。運営協議会が高い頻度で開催され、実施主体として優れた機能を果たしたと評価できる。

・**進捗状況（全般）**：次世代研究者育成数については、計画を超過して達成しており、キャリアアップ実績、ダイバーシティの視点からも優れた成果と認められる。イノベーション創出人材育成においても目標数を上回る人材を育成していることは評価できる。東京大学における若手研究者雇用安定化支援制度や、東京工業大学における新川崎NANOBIICの整備等、コンソーシアムとして持続的な研究環境の仕組み作りに貢献したものと認められる。

・**進捗状況（システム構築）**：若手研究者の雇用形態は特任助教であり、年俸制が適用されていることは流動性に配慮したものと評価できる。若手研究者に対して、それぞれのメンターが研究

発表と普段の研究活動に関するコメントを作成し、若手研究者にフィードバックすると共に運営協議会で共有するシステムは有効に機能していると認められる。若手研究者の多くが現地滞在を含むグローバルな共同研究を実施しており、ネットワーク形成、経験蓄積といった面でキャリアアップに必要なものを身につけられたと評価できる。

・**進捗状況（取組の内容）**：採用された若手研究者の研究活動エフォートは高く、研究に専念できる環境が十分に確保されたと認められる。若手研究者がキャリアアップしつつ活躍できていることは評価できる。選考に当たり国際公募を行っているが、応募者数が少なかったことは目的に沿った研究者が選考できたのか課題が残る。イノベーション創出人材育成の取組は充実しており、国内外のインターンシップやマッチングイベント等が実施され、多様なキャリアパスを支援する仕組みが整備されたと認められる。

・**体制構築**：運営協議会を代表機関と共同実施機関の代表者から構成し、継続して月1回の頻度でコンソーシアムとしての運営に関する審議や報告を行ったことは評価できる。国立研究開発法人、企業、国内外大学の有識者からなるアドバザリーボードが設置され、事業の適切な運営に効果的な役割を果たしたと認められる。海外研究機関と連携した取組が実施され、海外共同研究等が積極的に支援されたことは評価できる。

・**今後の進め方**：本コンソーシアムで培ってきた活動内容を先導事例として、大学の中に成果を定着させる計画となっている。代表機関のみならず共同実施機関を含めての、有効な資金計画を策定した事業継続が期待される。本取組を展開発展させて企業と大学間の多様な産学協創協定等が進んでいることは評価できる。